

開催地名：石川県能美市	
開催日時	令和元年9月7日（土） 13：30～15：00
開催場所	能美市防災センター
語り部	武蔵野 美和（岩手県陸前高田市）
参加者	自主防災組織・町(内)会・防災士 約100名
開催経緯	東日本大震災から8年が経過したが、災害時における地域コミュニティの連携は今もなお重要な課題の一つである。今回、被災地である陸前高田市にて地域活動に取り組んでおり、避難所の運営などにも実際に携わった「武蔵野美和氏」をお招きし、コミュニティの一員として、防災士として、そして女性の視点とした、多様な切り口で語っていただきたいと思う。
内容	<p>（1）はじめに</p> <p>私が住む陸前高田市は、岩手県南部の太平洋側に位置しており、岩手県の中では比較的温暖な地域で、東北の湘南とも呼ばれている。陸前高田市は、皆様ご存知のように東日本大震災で津波の被害を受け、街が壊滅してしまった。本日は生活者の視点からの避難所運営についてお話しさせていただきたいと思う。</p> <p>（2）東日本大震災の被害状況</p> <p>皆様ご存知のように、三陸沿岸は昔から津波の被害を受けてきた。さかのぼれば明治三陸大津波や昭和三陸大津波、チリ地震の津波の被害が有名である。これらの津波被害を受けて対策が講じられてきたにも関わらず、また、情報網が整備されていたにも関わらず、東日本大震災では多くの犠牲者を出してしまった。市内の公共施設についても、市庁舎や図書館、体育館、公民館、小中学校や保育所等々の多くの施設が全壊した。人口24,246名のうち、死者・行方不明者は1,757名にのぼった。</p> <p>「自分は大丈夫だ」という正常性バイアスが働き、過去の大津波を体験している人であっても、逃げなかった人が多くいたことは否定できない。地震が発生してから津波が押し寄せるまでの40分間、逃げた人と逃げなかった人では大きな差が出てしまったという現実がある。</p> <p>（3）避難とは</p> <p>陸前高田市では、避難場所の半数以上が被害に遭った。一部の地区では、訓練時に使用していた地区防災センターに多くの方々が避難したが、実は当該防災センターは指定避難所ではなかったため、避難所だと思い込んで避難してきた方々の多くが犠牲になってしまった。皆が逃げるのが出来なければ避難とは言えない。皆さんの地域では、要支援者を含む避難訓練を日頃からしているであ</p>

ろうか？ 陸前陸前高田市ではそのような訓練が行われていなかったために、多くの犠牲を出してしまった現実がある。日頃から「万が一」を考え、自分の命を守るための「備え」を意識していただきたいと思う。想定外とは想定を怠ったものの言い訳であることを肝に銘じていただきたい。そして、地域の災害のリスクや過去の災害を知ること、過去の教訓を生かすことを徹底していただきたい。

また、避難と避難所へ行くことは同じではない。身の安全が確保できるのであれば、とどまることも重要であり、ストレスが大きい場所にあえて行く必要はない。家が安全であれば家にとどまっていて問題ない。究極の防災は、逃げなくても良いところに住むことだと考える。

(4) 避難所について

避難所での避難生活では、一般的な備えしかない。アレルギーに対応した食品や、赤ちゃんのミルク、個々の病状に応じた薬等、それぞれにとっては必須のものである。全体では特殊なものについては用意されていないのが現実である。対応できなければ困ることは自分で備える必要がある。一時避難時の食事についても、個々で確保するのが基本である。そこで推奨したいのが、「ローリングストックの勧め」である。食べ物や日用品を少し多めに購入し、日常生活で普通に消費していく取り組みで、常に少し多めの状態をキープして、古いものから順番に消費していくという方法である。食料や日用品の他に、災害時に特に必要なものとして、カセットコンロや懐中電灯、充電式ラジオ、簡易トイレなどを用意しておくことも併せてお勧めしたい。



開催地より

「避難」についての具体的なお話を、防災士として、また女性の視点から伺うことができ、非常に参考になった。